

教材付き専門誌 病院安全教育

2018 10・11 月号

隔月刊誌

[特典]年ごめ購読会員は
セミナー参加料割引



企画/日総研グループ 発行/日総研出版© 病院安全教育 第6巻第2号 平成30年10月20日発行 (偶数月20日発行)

特集

使う! 使える!

TeamSTEPPS®

新連載

ストーリーで学ぶ
医療安全管理者のための
ノンテック導入塾

医療安全を組織的に保証する
ツールを使いこなす



今号の付録・資料

《動画教材シリーズ》

- 依存・攻撃・巻き込みをかわす
ディフェンス接遇10か条
- リスク感性 接遇・傾聴・伝達・実行・未来

- PFC(プロセスフローチャート)関連資料
- 医療安全対策加算1・2病院用相互チェックリスト
- 5Sルールお手本集
- 研修用アニメ動画 ほか 詳細は P.2



医療者間 コミュニケーション 強化への取り組み ～TeamSTEPPSの導入

JCHO東京高輪病院 医療安全管理室 医療安全管理者 **本田美香**

TeamSTEPPSとの出会い ～導入の一步

医療安全管理室のメンバーとして

筆者は、2014年に当院に赴任しました。その際、病棟看護師長に着任すると共に、医療安全管理室のメンバーとして医療安全に携わることとなりました。当院の医療安全管理室にはTeamSTEPPSのマスタートレーナーの資格を有した者がおり、医療安全管理室ではTeamSTEPPSは認知されていました。

2014年度の医療安全講習会は、「東京高輪病院 遂にTeamSTEPPS導入か!」をテーマにICLS風景を演出する企画でした。私自身、「TeamSTEPPS」という言葉だけは知っているという程度の認識でしたので、実際に何をどのように活用する手法なのかは講習会で知ることとなりました。チーム機能を効果的に発揮するための、指さし・声出し・チェックバック・具体的な発信などを目で見て感じることができました。

導入から継続への一步

医療安全講習会でのTeamSTEPPS研修の後、2015年度から看護部のラダー教育においてTeamSTEPPS研修が導入されましたが、受講対象者をラダーⅢ・Ⅳと限定していたこ

とから、TeamSTEPPSの本質となる「多職種と共同したチーム医療の推進・医療安全文化の醸成」が、組織的に展開されることにはなりません。また、部署においても、情報を伝える・意識して広める行動が乏しく、継続したTeamSTEPPSの実施も、残念ながら根づく体制とはなりません。

2017年度より医療安全管理者を専任から専従とする組織計画があったことから、筆者に専従者着任の声がかかり、2016年9月に医療安全管理研修を受講することになりました。そこで再びTeamSTEPPSを学ぶ機会を得ました。その際、TeamSTEPPS研修にファシリテーターとして参加し、楽しく学ぶ環境が研修意欲の向上につながることを、積極的な意見交換ができること、他者を知る・理解することにつながる体験をしました。自ら体験したからこそTeamSTEPPSに熱い思いを持つようになり、医療安全研修で再び取り入れることを目標としました。病院長のTeamSTEPPSに対する期待も高く、「ぜひともやってほしい」と要望がありました。

目標を掲げたものの、ファシリテーターの経験だけでは自らが主体となって研修を実施することに自信がなく、なかなか行動に移すことができませんでした。しかし、看護部からの依頼をきっかけに、受けてきた研修での学びを組織で共有するため、学舎の友らの頑張る姿や励ましの言葉をもらいながら、「私にもできる。やってみる!」と導入から継続

施設概要 ● JCHO東京高輪病院

2014年4月せんぼ東京高輪病院よりJCHO東京高輪病院に改称。病床数は急性期一般病床184床、HCU6床、地域包括ケア病棟49床を有する。2018年6月より訪問看護ステーション開設。周囲はホテルが隣接し、品川駅・羽田空港など交通アクセスがよい。外国人の受診者も年々増加し、国際部の活躍が期待されている。地域に根差し、地域から愛される病院を目指している。